佐野日大8強入り

6―5 平塚学園（神奈川）下す

秋季関東高校野球

第77回秋季関東高校野球大会第2日は27日、川崎市の等々力球場ほかで1回戦4試合が行われ、本県1位の佐野日大は平塚学園（神奈川2位）に6―5で競り勝って、8強入りした。

佐野日大は5―5の同点で迎えた八回、1死から4番打者の和栗虎雅が右越え三塁打で出塁すると、続く田崎琢大のセーフティースクイズで勝ち越した。先発の洲永俊輔は5失点ながら9回を投げ切った。

佐野日大の準々決勝は29日午後0時半から、横浜市のサーティーフォー保土ケ谷球場で高崎健康福祉大高崎（群馬1位）と対戦する。

▽1回戦（等々力）

平塚学園（神奈川）	200	000	300	5
佐野日大	102	020	01X	6

▽本塁打 野井（平）▽三塁打 和栗（佐）▽二塁打 本間、鈴原（平）和栗2、洲永（佐）

【評】本県王者の佐野日大が粘る平塚学園を振り切った。

先発の洲永は初回に四死球から2点の先行を許すが二回以降は立ち直る。3点リードの七回に守備のエラーと本塁打で同点とされたが、12奪三振と力投した。

打線は相手より少ない7安打ながら、主砲の和栗が4安打5打点でけん引するなど効率良く得点し相手を上回った。

一球の重み思い知る

○…佐野日大の大会注目左腕、洲永俊輔は9回5失点の内容に「自分らしさを出し切れなかった」と首をかしげた。

一球の重みを改めて思い知らされた。2点差に迫られた七回2死二塁で打席には相手6番。それまで3打席凡退に抑えていただけに「簡単に投げてしまった」。ボールが先行しストライクを取りにいった直球をスタンドへ運ばれ同点に。「もっとこだわって投げるべきだった」と悔やんだ。

チームはその後勝ち越して勝利。エースは「打者陣に助けられた」と安堵し、「次こそは自分が」と雪辱を誓った。

佐野日大・田崎琢大（八回に決勝のセーフティースクイズを決める）「打球をライン際に寄せきれなかったが、（三走の）和栗（虎雅）にセーフになってくれと思い一緒に走った。歓声で点が入ったと分かった」

▽1回戦

西武台（埼玉）	100	100	000	2
千葉黎明	020	010	00X	3

（西）加藤桝、山下、追木―田代、米谷―川村

これぞ主砲、4安打5打点

ヒーロー

佐野日大・和栗

1本のバットが暗雲を吹き飛ばした。高校で自身初という4打数4安打5打点。佐野日大の全6得点に絡んだ和栗虎雅は「4番としての仕事を果たせて本当にうれしい」と満面の笑みで勝利をかみ締めた。

ここぞという時、存在感を発揮した。1点を追う三回と1点リードの五回は、共に2死から左翼線への2点適時二塁打でガッツポーズ。極め付きは同点に追い付かれ流れが相手に傾きかけた八回。「当たっている自分が起点になる」と右越え三塁打で出塁し、決勝の本塁を踏んだ。

名前の由来は父真一さんが好きだという米プロゴルファー、タイガー・ウッズ。幼少期から練習場に連れられ「飛距離は300ヤードいかないぐらい」と、ゴルフでも長距離砲の片りんを見せる。この日はバットで3本の長打と広角に打ち分ける器用さを発揮し「（ゴルフが）役立ってるのかな」と笑いを誘った。

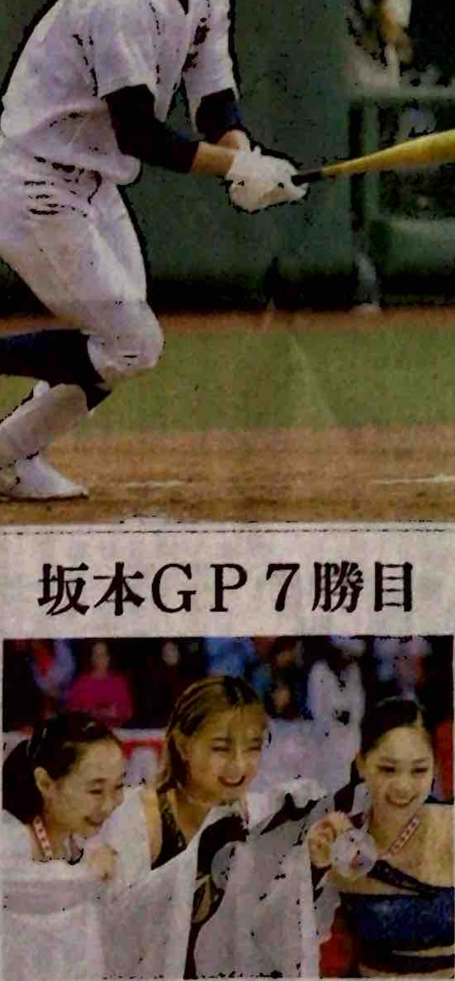
新潟県出身の178センチ、78キロが、関東の舞台で背番号3の背中をひときわ大きく見せた活躍ぶり。それでも「目標はセンバツなので、それに向けて次も自分のスイングをするだけ」と浮かれるそぶりはみじんもない。虎視眈々と11年ぶりの春の甲子園を狙う。（加藤竜矢）

8回、佐野日大の和栗が右越えに三塁打を放つ＝川崎市の等々力球場、鈴木航撮影

坂本GP7勝目

日本勢表彰台独占

フィギュアスケートカナダ



笑顔を見せる優勝した坂本（中央）と2位の松生（左）、3位の吉田＝ハリファクス

【ハリファクス（カナダ）共同】フィギュアスケートのグランプリ（GP）シリーズ第2戦、スケートカナダ第2日は26日、カナダのハリファクスで行われ、女子はショートプログラム（SP）首位の坂本花織（シスメックス）がフリー2位